



横浜みどりアップ計画 地域緑のまちづくり事業

R E P O R T

●地区名 生麦新子安地区

●団体名 生麦新子安地区緑のまちづくり協議会



◎所在地：鶴見区 生麦1丁目2、16、17、
生麦2丁目、生麦3丁目15、大黒町1～6
神奈川区 宝町、恵比須町、
守屋3丁目、守屋4丁目

●取組期間

5
か年

●協定締結期間

平成24～28
年度

横浜みどりアップ計画とは

緑の減少に歯止めをかけ、
「緑豊かなまち横浜」を次世代に
継承するため、「横浜みどり税」を
一部財源として活用しながら、
「横浜みどりアップ計画」を進めています。

横浜みどりアップ計画



地域緑のまちづくり事業とは

地域が主体となり、住宅地や商店街、
オフィス街、工場地帯など様々な街で、
地域にふさわしい緑を創出する
計画をつくり、市民との協働により
緑化を進めるものです。

地域緑のまちづくり事業



地区の範囲図及び緑化実施場所

団体の概要・地区の諸元

生麦新子安地区緑のまちづくり協議会
は、地区内の企業（協定締結時22社）、
貨物線の跡地を活用した「貨物線の森
緑道」で活動する市民ボランティア団体
で構成された団体です。大正時代から
の海岸埋立地で、縦横に運河が張り巡ら
されています。

また、生麦駅、新子安駅の両鉄道駅から
京浜臨海部への通勤者の玄関口となっ
ており、「神奈川産業道路」及び「貨物線
の森緑道」に面する事業所を中心に、ま
とまりのある産業地区を形成しています。
近年は大規模な民有地における土地利
用更新が進められるとともに、横浜環状
道路「きたせん」の整備により、ますます
交通の要衝としての産業振興が期待さ
れています。

取組（計画）の概要

鉄道駅から臨海部への玄関口である地
域にふさわしい緑の環境を創造し、通勤
及び災害避難時の主動線を「緑のめぐり
みち」として位置づけ、沿道での一体的
で連続した民有地の緑化及び公共施設
の緑化とともに、身近な水辺の緑化を推
進します。

5つの緑のルール

- ① 協働により沿道の緑化・美化を進めます。
- ② 歩いて楽しい緑を増やします。
- ③ 橋等から見える身近な水辺を緑化します。
- ④ 地域交流の場として緑の活用を図ります。
- ⑤ 貨物線の森緑道の整備・地域緑化活動。



- ① 春先の貨物線の森緑道
- ② キリンビール(株)横浜工場のビオトープ池
- ③ 昭和産業(株)の緑化整備
- ④ 日産自動車(株)の緑化整備
- ⑤ 千代田化工建設(株)の緑地を沿道から(27年度の緑地見学ツアーにて)
- ⑥ 新子安橋プランターの花苗の植替え
- ⑦ 新子安駅前広場(公共施設緑化)での維持管理活動の様子

5か年の主な取組実績

● 助成金額合計 40,098千円

民有地緑化

公開性のあるビオトープの整備など、地域に開かれた緑空間がつけられました。

キリンビール(株)横浜工場や、日産自動車(株)横浜工場など、延べ8か所で、周辺環境に配慮したビオトープ整備や、来訪者動線沿いにおいて、樹木等による緑化が行われました。

活動支援

工場地帯で働く人たちが訪れる人が、花や緑を感じられるように活動を行いました。

市民と企業が協力し、新子安橋のプランターや、地区内の企業の玄関口など延べ38か所の花壇で、年2回花苗の植替えや、維持管理活動を継続して行っています。そのほか、会の活動の共有のため、月1回広報誌を発行や、地区内の緑地見学会等を行っており、その内容や継続性について、まちづくりの専門家から高く評価されています。また、貨物線の森緑道では、草刈りや清掃などの維持管理活動のほか、仮設のビオトープ池を設置するなど、周辺の生きもの環境の改善にも貢献しています。

公共施設緑化

地区内における歩行者の主動線である「緑のめぐりみち」で、身近な緑をつくるため、大黒スポーツ広場等の公共施設、3箇所植栽工事を実施しました。



5か年の取組を振り返って [地区のインタビューのコメントから抜粋]

貨物線の森緑道の公園整備や、5か年の取組成果によって、「産業道路の沿道の緑環境がよくなった。」との声が聞かれました。また、緑化整備を行った企業の担当者からは、「前と比べて、植栽帯が明るくなって、季節ごとに緑の変化が楽しみ、従業員や見学者からの評判がとても良くなった。」と、企業内での評価を聞くことができました。今後も、貨物線の森緑道の活動を中心に、工場地帯での緑の取組を進めていきたいと思っています。



お問合せ先

横浜市環境創造局みどりアップ推進課

Tel.045-671-3447 | Fax.045-224-6627

メール ks-ryoka@city.yokohama.jp